

令和元年度 第3回医療事業部研修会(報告)

主催 熊本県栄養士会 医療事業部

日時 令和元年 11月9日(土) 10:30~15:30

会場名 熊本大学病院 医学教育図書棟4階 第3講義室

午前の部

◇『日本の肝移植の現状と未来』

講師:熊本大学大学院 生命科学研究所 小児外科学・移植外科学分野

教授 日比 泰造先生

癌は第1の死因で、日本では37万人、移植がからむところは3万人の状況とのこと。少し古いデータでは移植で助かる命は2000数百人、実際に行われている移植は400数十件、脳死が60件で、肝移植にいたる病気はたくさんあり、移植を受けられれば助かるかもしれない患者さんと実際移植を受けている患者さんを差し引きし、患者さんがどこで亡くなっているかを調べると、残念ながら移植が間に合わずにバタバタ亡くなったのではなく、移植の施設外で亡くなっており、かつ、ほとんどは移植をすれば助かるかも知れない情報ですら与えられていない状況が問題だと教えて頂きました。最低でも毎年日本で1500人程度が移植のことを知らされないまま亡くなっているそうでした。

2008年イスตันบูล宣言により渡航移植を厳しく制限する外圧がかかったことで、日本の臓器移植改正法が成立しました。患者さん本人の生前書面での意志表示がなくても家族の同意があれば提供が認められ、日本での移植が高まりました。法律がアクティブになったのが2010年ということでした。

先生はマイアミ大学で2年間移植を学ばれており、携わった患者さんを救えなかった話しや治療の難しさをお話し頂きました。患者さんに寄りそう医療を実践されており心に残る内容でした。

肝臓はないといけない臓器であり移植をすることで命がつながること、先生がマイアミで学んだことは、臓器提供が人類共有のひとつの極限の姿であるということでした。自分が亡くなって社会への贈り物として臓器提供をする、臓器提供することで別の臓器がなければ生きていられない患者さんに入る、この臓器移植の社会が生命の樹であり、生命の樹が未来に向かって大きく広がることを願っておられました。

生体肝移植は、健康な方に手術をして一部を提供するため脳死より技術は難しいけれど、脳死も生体肝も成績は全く同じであること、肝移植がなければ1年生存率がゼロでも今は成人の5年生存率は7割ちよつと、小児では9割生存できるように成績がよくなったそうです。日本は20年間で脳死の肝移植が400件と少なく、マイアミ大学の2年分ということでした。日本の移植医療はまだ真っ暗闇が続いており、わずかながら生体肝移植で命が助かり脳死が少しずつ増えている状況であり、この状況を私達は十分共有出来ておらず、医療全体で脳死のこと、あるいは提供する、されることはいつ誰に降りかかってくるかわからないため全国民の問題として認識されていないことを嘆かれておられました。

今回、移植について学ぶ機会を頂き、今私たちひとりひとりが臓器提供について考え、日ごろから家族と話し合いをし、自分の意思を示しておくことが大切であると感じました。先生は、「患者さんの生涯にわたって時間を共有し、命と対峙することを領分としています」とコメントされており、そのような日本の移植外科をリードされる新進気鋭の日比先生にご講義頂き感謝申し上げます。



午後の部

◇『慢性肝疾患と肝癌の最新の話題』

講師：熊本大学大学院 生命科学研究部 消化器内科学分野 吉丸 洋子先生

肝疾患は病態もさまざま、臨床的な治癒に至る可能性の高い急性肝障害、長く炎症が続くことで肝硬変や肝癌へと移行していく慢性の肝障害があり、6ヶ月以上炎症が持続すれば慢性の肝障害と定義されており、原因としてはウイルス性、アルコールや非アルコール性、自己免疫性、薬物性、代謝性肝障害となっています。まず B 型肝炎、C 型肝炎についてお話しがあり、歴史から疫学、ウイルスの構造、感染経路、治療目標、抗ウイルス療法など多岐に渡り教えて頂きました。B 型では、急性肝炎でキャリア化の頻度が高い遺伝子型 A が増えていること、免疫抑制剤や化学療法時には、HBV 再活性化に注意が必要であること、0 歳児を対象としたワクチンの定期接種制度が 2016 年 10 月から開始されたことを学びました。C 型では、抗ウイルス薬の発達が非常に進んでおり撲滅できるのではないかとわれこともあるそうです。DAA（直接作用型）抗ウイルス薬によって治療成績が向上しており、これまで使えなかった非代償性肝硬変や C 型肝炎の感染率が高い腎障害や透析中の症例でもウイルス排除が出来るようになったと教えて頂きました。ただ、5 年発癌率は 2.3~8.8%で注意が必要であるとのことでした。

非アルコール性脂肪性肝疾患について、NAFLD では、日本は欧米化しており男性の方が 41.0%と多く、高齢女性になると女性ホルモンの関係で増加するそうでした、BMI 別 NAFLD 合併頻度は、BMI 増加とともに頻度が上昇しており肥満や生活習慣病を是正する必要があると改めて思いました。肝臓に変性や壊死、炎症や線維



化を伴って全体の 10~20%の方が NASH となり、5~10 年後には 5~20%が肝硬変となり、そのうち 2%が肝癌に移行するとのことでした。肝癌については、治療方法、治療アルゴリズム、分子標的薬などについてお話しがありました、肝癌は切除など根治的治療を行っても年率 15~20%と高率に再発を認めるため、予防や早期発見が重要であると説明されました。慢性疾患から肝癌まで丁寧に幅広く教えて頂き大変勉強になりました。

本日は 60 名の参加があり、フロアからも質問がいくつもあり有意義な研修会でした。

日比先生は、お言葉の中に熱い想いを感じました。

吉丸先生は、当直前にも関わらず盛り沢山に話して頂きました。

今後は高齢化が進行する慢性肝疾患患者さんのサルコペニア対策が临床上重要な課題であるため、私達栄養士は、低栄養や筋力低下を少しでも阻止出来るように取り組まなければいけないと改めて感じた研修会でした。

日比先生、吉丸先生ありがとうございました。

連絡事項

- ・ 2019 年度 スキルアップセミナー 12 月 7 日（土）福岡開催
栄養管理の情報を地域連携に生かすためのカルテ記録を学ぶ研修会となっています。
- ・ 医療・福祉合同研修会 令和 2 年 4 月 25 日（土） 場所未定
地域包括ケアシステムの理解と管理栄養士の関わり等を学ぶ研修会となっています。